

1月の推し本

今年も
推し活しよう!



『司書のお仕事2』

大橋 崇行 // 著 勉誠出版 請求記号 013.1/オ/ 資料番号 610130213

<https://ilisod001.apssel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603389>

【紹介文】「図書館の仕事とは」と問われると「う～ん」とあれこれ考えてしまう。専門用語を並べても、分かりにくい。「配架（ハイカ）」ってなんだ？となりませんか？この本は、前作に続き第2弾。「図書館司書になりたい」より、「図書館司書」としての専門知識、本と人を繋げる場所としてのサービス、地域との交流など、最近の図書館はこんなことになっているんだ！と思えることばかり。表紙も内容もラノベか?!と思うもので、中高生もぜひ手にとっていただきたい。ちなみに「配架」は返却された本を請求記号に基づいて、元の棚（書架）にもどす作業。次の人が気持ちよく借りてくれればという想いもあります。

『「中国」の形成（シリーズ中国の歴史5）』

岡本 隆司 // 著 岩波書店 請求記号 222/オ/ 資料番号 610120305

<https://ilisod001.apssel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601098>

【紹介文】歳をとると、なぜか中国の歴史を読みたくなる、あるラジオでゲストが喋っていた。そのゲストは映画「新解釈・三国志」の主題歌を歌っている。「キングダムとかもそうだよな」ってマンガかよ。いやしかし、三国志にしろキングダムにしろ、中国王朝の話は登場人物が多く話が長く、くたびれる。ブロークン&ビルドを繰り返し、滅んでは建国し、裏切りからのレボリューション、、、とても情緒が安定しない。にもかかわらず、面白いのはなぜか。そこに熱い思いが漲っているからだろう。中国の歴史の面白さにふれてほしい！

『「悪」が変えた世界史（上・下）』

ヴィクトル バタジオン // 編 原書房 請求記号 280.4/A/ 資料番号 610126732/610126740

<https://ilisod001.apssel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602594>

【紹介文】悪人として歴史に残る人物はいったいどのようなことをしたのか？なぜ、そこまで残虐になれたのか？をまとめたエピソード集。

特に下巻は近現代を扱っているので当時の報道の記憶がよみがえってきます。

普通の人間ならとてもじゃないけどできない行為を彼らは躊躇なくやれたのは、理想国家の建設や己の権力のためなんだろうけど、私には絶対に理解できない狂気だと思う。

『志麻さんの台所ルール』

タサン志麻 // 著 河出書房新社 請求記号 596/タ/ 資料番号 610130833

<https://ilisod001.apssel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603586>

【紹介文】「同じレシピを何度も見て作っているのに、作り方が覚えられない」というのは、レシピ通りに作ることを最終目標にしてしまっているから。」私のことが書いてある...？鍋やコンロといった調理道具も各家庭で違うし、塩ひとつとってもいろんな種類があるのに、レシピに書かれたとおりにしても、作った人によって仕上がりが変わるのは当然か。「疲れない簡単さが、日々食べるごはんには必要。」そうそう、そうですよね。この本には料理のレシピは載っていませんが、料理が苦手、苦痛と思っている人には気持ちが楽になるアドバイスが書かれています。人気家政婦志麻さんの一生ものの料理のコツ、ここにあります！

『仏像さんを師とせよ』

八坂 寿史 // 著 淡交社 請求記号 718/ヤ/ 資料番号 610128894

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603078>

【紹介文】個人的な話ですが、仏像が大好きです。

本書は、明治32年に岡倉天心が創設した日本美術院に端を発し、指定文化財の仏像を中心に修理を行う、公益財団法人美術院の工房長が書かれました。ページを開くと、修理例として挙げられている千手観音立像の解体写真に圧倒されます。いにしへの仏師たちは、千年後に修理されることを想定せずに仏像を作ったのでしょうか、工房では今からさらに千年先を見据えて適切な修理を行うそうです。どこかの国では修復士が美術品を台無しにしてしまったとか…。日本では修理に人生をかける『匠』たちが、芸術と歴史と文化を守っていることを知る一冊です。

『ふきさんのアイデアおもちゃ大百科』

佐藤 路 // 著 偕成社 請求記号 750/サ/ 資料番号 610130049

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603350>

【紹介文】工作って楽しいですね。夢中になって作っていたら、あっという間に時間が過ぎていきます。そう考えると今のおうち時間に工作はピッタリな気がします。本書には、ペットボトルや紙コップなど身近にあるもので、簡単に作れる工作が多く載っています。お風呂に入りたがらない子供のためになど、実体験から生まれたアイデアも多く子育て中の方には、お助けアイテムになるかもしれません。またこどもでも読めるよう全てに、ふりがなが振ってあるので、親子で楽しめますね。アイデアひとつで楽しい時間を過ごすことが出来るのだと改めて感じます。おうち時間にピッタリな一冊です。

『まるごとサメ事典』 (児童書・さかな)

菅原 嘉子 // 文 ウエタケ ヨーコ // 絵 ポプラ社 請求記号 487/ス/ 資料番号 620048629

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603037>

【紹介文】サメという魚はこわい映画によく出てくる。なのでこわい魚だと思いがちだけれど、じつはなかなかおもしろくてふしぎな魚のようである。なまえにねこやねずみ、とら、のこぎり、カスがついているサメがいる。そして、それぞれがふしぎな力をもっているという。この本には、51種のサメがしょうかいされているが、世界には、540種、日本の近くの海には130種ものサメがすんでいる。日本の近くにしかないサメもいる。どんなサメかはぜひみてほしい。サメは神さまとしてあがめられたりする生きものだそうだ。サメの力で悪いものもやっつけてほしいものだ。

『あしたのことば』 (児童書・ものがたり)

森 絵都 // 作 小峰書店 請求記号 913/ト/ 資料番号 620049437

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603371>

【紹介文】”言えなかった言葉はどこへ行く？”ことばに羽が生えて空に飛んで行く？それともパソコンのサイトのどこかにたまっていく？そんな言葉のお話を8話集めた本です。友達と気まづくなった帰り道で、ある一言でモヤっとした気持ちが流されていく。苦手に思っている人にはこの言葉でしゃあないと気持ちが軽くなる。“新しい未来へつながる言葉”ってとてもうれしく勇気をくれるのかもしれませんがね。そんな”あしたのことば”、この本を読んで見つけていけたらいいですね。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30 (木・金は19：00まで。本館のみ)

ホームページから蔵書検索もできます



(2021.1.7発行)